

令和4年度 第2回
久留米市認知症支援ネットワーク会議（久留米市オレンジ会議）
次第及び配布資料

日程：令和5年1月27日（金）18:00～
場所：久留米シティプラザ小会議室1・2

次 第

1. 報告事項

久留米市第8期高齢者福祉計画及び介護保険事業計画における認知症施策
の進捗状況について 【資料1】

2. 協議事項

久留米市認知症支援ガイドブックの見直しについて 【資料2】

3. その他

【配布資料】

- 資料1 久留米市第8期高齢者福祉計画及び介護保険事業計画における認知症施策
の進捗状況（各事業）より抜粋
- 資料2 久留米市認知症支援ガイドブックの見直しについて
- 参考資料1 久留米市認知症支援ネットワーク会議（久留米市オレンジ会議）設置要綱
- 参考資料2 久留米市認知症支援ネットワーク会議（久留米市オレンジ会議）委員名簿

久留米市第8期高齢者福祉計画及び介護保険 事業計画の進捗状況（各事業）より抜粋

※各施策の進捗度を踏まえ、令和3年度における事業目的・目標の達成度を、次のとおり評価しています。

A	目標どおり・目標以上の成果があった（100%以上）
B	概ね目標どおりの成果があった（70%以上～100%未満）
C	目標とした成果は得られなかった（70%未満）
D	事業未着手
—	令和3年度の指標なし

第6章 認知症施策の推進

【施策の方向性】

認知症になってもならなくても、安心して暮らしていけるよう、認知症サポーターやキャラバン・メイトの養成等の認知症への理解を深めるための普及・啓発に取りむ。

また、認知機能のチェック等の認知症に気づき対応 できる仕組みづくりを進めるとともに、認知症の人やその家族を支援する ための新たな仕組みづくりに取り組む。

1. 認知症への理解を深めるための普及・啓発

認知症サポーター、キャラバン・メイトの養成

認知症サポーター、キャラバン・メイトの養成		【長寿支援課】								
令和3年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 認知症について正しく理解し、地域において認知症の人やその家族を見守り支える「認知症サポーター」を養成するため、小中学校、企業・地域団体等に対し、サポーター養成講座を実施した。 新型コロナウイルスの影響で認知症サポーター養成数は減っていたが、徐々に認知症サポーター養成講座の申込みが増加傾向にある。 									
	▽事業実績 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>講座名</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認知症サポーター養成者数</td> <td>34回 / 1,671名</td> </tr> <tr> <td>キャラバンメイト養成講座回数</td> <td>0回</td> </tr> </tbody> </table>					講座名	実績	認知症サポーター養成者数	34回 / 1,671名	キャラバンメイト養成講座回数
講座名	実績									
認知症サポーター養成者数	34回 / 1,671名									
キャラバンメイト養成講座回数	0回									
▽課題 <ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター養成講座について、これまで実施できていない新たな分野への働きかけを行う必要がある。 キャラバンメイトの一部しか活動できていない。 										
▽今後の取り組みの方針 <ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター養成講座について、高齢者に身近な店舗への働きかけを行っていくとともに、オンラインを用いた講座の開催を検討する。 認知症サポーターのさらなる活動の仕組みづくりを検討する。 キャラバンメイトへ、認知症サポーター養成講座の講師役として活躍できるようなキャラバンメイトフォローアップ講座を行う。 										
指標 達成状況	指標の内容	単位	R3 目標値	33,000	R3 評価					
	認知症サポーター 養成人数（延べ）	人	R3 実績値	35,327						
			達成度（%）	107.1						
A										

認知症講演会の開催

認知症講演会の開催		【長寿支援課】			
令和3年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 認知症への社会の理解を深めるために、地域の高齢者団体に対し講師を派遣し講演会を開催した。 				
	▽事業実績 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>事業内容</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認知症講演会</td> <td>1回 / 参加者 29人(市内1か所)</td> </tr> </tbody> </table>	事業内容	参加者数	認知症講演会	1回 / 参加者 29人(市内1か所)
事業内容	参加者数				
認知症講演会	1回 / 参加者 29人(市内1か所)				
	▽課題 <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響で開催が困難な状況である。 				
	▽今後の取り組み方針 <ul style="list-style-type: none"> 認知症の当事者や介護する家族が自身の体験を語るなど参加者が認知症を身近に感じる講義内容とする。 地域のイベントに合わせて実施するなど開催形式を検討する。 				

2. 認知症に気づき対応できる仕組みづくり

認知症早期診断・早期対応の推進

認知症支援ガイドブックを活用した周知		【長寿支援課】
令和3年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ガイドブックを活用して、認知症の早期対応の重要性を周知した。 	
	▽事業実績 <ul style="list-style-type: none"> 市主催の事業や窓口、医療機関等において、3,554部配布。 	
	▽課題 <ul style="list-style-type: none"> 国の制度改正の状況等を踏まえガイドブックの修正を行う必要がある。 	
	▽今後の取り組み方針 <ul style="list-style-type: none"> ガイドブックの改訂に向けて今後、認知症支援ネットワーク会議において検討を行う。 	

認知症地域支援推進員の配置

【長寿支援課】

令和3年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の総合相談窓口である地域包括支援センター11か所に、各1名の認知症地域支援推進員を配置し、医療、介護、福祉等の関係機関との連携強化や認知症の理解を深めるための普及・啓発を行った。 認知症の人への声かけ訓練は新型コロナウイルスの影響により開催なし。
	▽課題 <ul style="list-style-type: none"> 認知症地域支援推進員の配置は完了しているが、今後、認知症地域支援推進員の業務の質の向上を図っていく必要がある。

認知症初期集中支援チームの運営

【長寿支援課】

令和3年度
実施状況

・すみやかに適切な医療や介護サービスが受けられるよう、認知症サポート医と医療・介護の専門家がチームになり、高齢者の支援を行う。

▽事業実績

支援対象者	18人
延支援回数(訪問、電話)	211回

・毎月2回、介入者への介入方法等を検討するチーム員会議を実施。
 ・認知症初期集中支援チームの活動状況及びチームの活動における関係機関との具体的な連携方法に関する事並びに認知症の早期の発見及び治療につなげるシステムの構築等についての協議を行う「認知症医療連携会議」を実施。

▽課題

・困難事例が増加している。
 ・困難事例の関わり方を地域包括支援センターにフィードバックし、地域包括支援センター職員のスキル向上につなげる必要がある。
 ・オートロックマンションのケースが増加しており、面会できない等対応に苦慮している。
 ・認知症初期集中支援チームの活動について、広く関係機関や市民に知られていない。

▽今後の取り組み方針

・地域包括支援センターへ事例を通した研修の場を設けることを検討。
 ・ケース検討を通しオートロックマンションへの対応を検討。
 ・関係機関や市民に対し、認知症初期集中支援チームの周知を行う。

認知機能チェック

【長寿支援課】

令和3年度
実施状況

・認知機能の状態を確認し、必要に応じて医療機関への受診や介護予防につなげられるように、久留米大学と協働して「ものわすれ予防検診」を実施。
 ・認知機能の簡易検査を取り入れた「認知症予防講座」を開催した。

▽事業実績

事業名	実施場所	参加者数
ものわすれ予防検診	3会場	41人(実人数。延べは無し)
認知症予防講座	11会場	126人(実人数) 466(延べ人数)

▽課題

・ものわすれ予防検診と認知症予防講座の両方について、会場によって、申込み状況に差があるため、会場の選定や広報・周知を工夫する必要がある。
 ・認知症予防講座の参加者数が減少している。

▽今後の取り組み方針

・ものわすれ予防検診の開催場所をや定員増について検討を行う。
 ・認知症予防講座の広報方法の検討。

福岡県若年性認知症サポートセンターとの連携

【長寿支援課】

<p>令和3年度 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・若年性認知症に関する市民向け相談会を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止した。 <p>▽課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庁内で認知症の方と関わる機会がある部署に対して、必要に応じて周知が必要と考える。 ・市や地域包括支援センターに若年性認知症についての相談がほとんどなく、相談窓口としての周知が必要である。 <p>▽今後の取り組み方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若年性認知症の相談会の周知について検討。 ・若年性認知症の相談窓口の周知を図る。 ・若年性認知症について、庁内職員や包括支援センター職員へ向けた研修会の実施を検討する。
-----------------------	---

3. 認知症の人やその家族への支援

認知症の人やその家族への支援

認知症カフェへの支援

【長寿支援課】

<p>令和3年度 実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方やその家族の孤立防止、介護負担の軽減を図る「認知症カフェ」について、開設や運営の支援を行った。 <p>▽事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症カフェ開設講座 参加者 18人 ・認知症カフェ 8ヶ所(新規登録2か所)。 ・認知症カフェ開設運営マニュアル作成 <p>▽課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症カフェ運営者が一同に集まる機会がなく、情報共有ができていない。 <p>▽今後の取り組み方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症カフェの運営を担う人材育成を行う。 ・認知症カフェの開設や運営についての相談を受ける。 ・認知症カフェ一覧を作成し、周知を図る。 ・認知症カフェ運営者が集まる研修会や情報共有の場を設けることについて検討する。 				
<p>指標 達成状況</p>	<p>指標の内容</p> <p>認知症カフェの 設置数</p>	<p>単位</p> <p>箇所</p>	<p>R3 目標値</p> <p>R3 実績値</p> <p>達成度 (%)</p>	<p>7</p> <p>8</p> <p>114.2</p>	<p>R3 評価</p> <p>A</p>

認知症介護電話相談

【長寿支援課】

令和3年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の人やその家族が抱える悩みや不安について、認知症家族介護経験者による電話相談を実施した。 ・認知症介護電話相談専用ダイヤル設置。 			
	<p>▽事業実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業内容</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認知症介護電話相談</td> <td>毎週1回 計50回開催／相談件数28件</td> </tr> </tbody> </table> <p>▽課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談件数が少ない。 <p>▽今後の取り組み方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談件数増加に向けて、さらなる周知を図る。 	事業内容	実績	認知症介護電話相談
事業内容	実績			
認知症介護電話相談	毎週1回 計50回開催／相談件数28件			

行方不明高齢者位置情報検索サービス利用者補助事業

【長寿支援課】

令和3年度 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症高齢者等が行方不明となった場合の早期発見及び事故防止を図るため、位置情報検索サービスの利用開始に係る費用の一部を助成した。 <p>▽事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・申請 5件 ・あんしん登録申請者に対する案内を行った。 <p>▽今後の取り組み方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業についての周知を図り、必要な方の利用につなげる。
---------------	--

認知症の人とその家族を支援する新たな仕組みづくり

【長寿支援課】

令和3年度 実施状況	<p>▽事業実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームオレンジの枠組みの検討を、地域包括支援センターや認知症支援ネットワーク会議で行った。 <p>▽今後の取り組み方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームオレンジの枠組みを決める。 ・ステップアップ講座の内容を検討する。
---------------	--

久留米市認知症支援ガイドブックの見直しについて（案）

認知症支援ガイドブックの見直しにあたって以下の通り考えているが、久留米市認知症支援ネットワーク会議の委員の皆様の意見等をお伺いしたい。

1. 認知症支援ガイドブックの見直しの方向性

(1) 認知症支援ガイドブックの構成等

現行の認知症支援ガイドブックの構成を基本に、以下の項目を新たに追加

- ① 認知症の要因の周知
- ② 口腔ケアと認知症の関係
- ③ 認知症カフェや高齢者の通いの場などの取組み
- ④ 若年性認知症の内容等の修正 など

【参考：現行の認知症支援ガイドブック（2019年3月改正版）の構成】

- (1) 認知症のことを知っていますか（認知症に関する説明）
認知症の種類、若年性認知症、認知症チェックリスト
- (2) 認知症かな？と思ったら（医療機関、介護サービス利用のメリット）
- (3) 認知症の人への理解を深める
認知症よくある症状などの対応ポイント、認知症の人の気持ちを知ろう等
- (4) 認知症の段階別に見られる主な症状と家族の対応
認知症ケアパス（認知症の人やその家族が、認知症の進行に合わせて、どこで、どのような医療や介護サービス等を受ければよいかといった、認知症の人の状態に応じた標準的なサービスの流れ）
- (5) 認知症になっても地域で安心して生活するためのヒント
介護保険サービス、高齢者福祉サービス、成年後見制度について、認知症に関する市の取組み など
- (6) 相談可能な医療機関一覧
- (7) 認知症を進行させないために（認知症予防）

(2) 相談可能な医療機関一覧の見直し

認知症の診療が可能な医療機関の一覧の現時点での時点修正等を行う

(3) 概要版等の作成

2. 医療機関の調査について

相談可能な医療機関一覧（P.21～30）の見直しにあたり、令和5年4月以降に、以下の通り調査実施

- (1) 別紙調査票にて調査
- (2) 調査方法は、各医師会と調整（医師会から調査票の送付、市からの送付など）

3. 見直しの体制等

- (1) 令和5年度に認知症支援ネットワーク会議にプロジェクトチームを設け、見直し案を協議（プロジェクトチームは4名程度の委員、年間5回程度の会議を想定）
- (2) プロジェクトチームの委員は、希望者により選定

4. 今後のスケジュール

日付	内容
令和5年2月～	・医療機関調査にあたり、各医師会へ相談 ・医療機関の調査を、各医師会へ説明
4月	・認知症支援ガイドブック見直しのためのプロジェクトチーム設置 ・医療機関へ調査票の送付（1か月後程度を締切）
4月～7月	・プロジェクトチームでの協議
8月	第1回認知症支援ネットワーク会議 ・認知症支援ガイドブックの案を提示
9月～10月	プロジェクトチームでの協議
11月	第2回認知症支援ネットワーク会議 ・認知症支援ガイドブック修正案を提示
12月	プロジェクトチームでの協議
令和6年1月	第3回認知症支援ネットワーク会議 ・認知症支援ガイドブックの完成版の提示

【参考】

1. 認知症支援ガイドブックの目的

認知症は、早く気づいて対応することで、その症状を軽減できたり、進行を遅らせたりすることができると言われている。そこで、認知症の早期対応の重要性等を掲載した『久留米市認知症支援ガイドブック』を作成し、市民や関係者に普及・啓発を行う。

2. 見直しの経緯

- ・平成27年度 『久留米市認知症支援ガイドブック（初版）』作成
（作成にあたり、認知症支援ネットワーク会議を4回開催）
- ・平成30年度 『久留米市認知症支援ガイドブック（改定版）』作成
（作成にあたり、認知症支援ネットワーク会議を3回開催）
- ・平成31年4月 『久留米市認知症支援ガイドブック（概要版）』を全戸配布
* 認知症支援ガイドブック（初版、改訂版）は、令和2年度末までに、
合計約54,000部を配布

3. 認知症支援ネットワーク会議での意見

(1) 令和3年度第1回（令和3年10月）

- ・認知症には、中年期の難聴や高齢期の喫煙等という様々な要因があることを周知する。
- ・口腔ケアについても、ガイドブックに盛り込む。
- ・ガイドブックを要約したリーフレットを作成すれば、初めて認知症を知る人も見えてもらえるのではないかと思う。
- ・ガイドブック見直しがあれば久留米市公式LINEで情報発信する等して欲しい。
- ・事業者と連携して認知症支援ガイドブックの周知を行っていく。

(2) 令和4年度第1回（令和4年8月）

- ・難病医療制度の前頭側頭葉変性症の表現を変える、若年性認知症サポートセンター等の電話番号を入れる、福岡県認知症医療センターである久留米大学病院の記載を行う、高齢者の通いの場などの社会資源の情報を盛り込む など。
- ・見る人のニーズに合わせて作成してもよいのではないか。
- ・活用方法を具体的に説明する。
- ・民生委員が高齢者を訪問の際に渡せるように、多めに民生委員へ配る。

(8)『久留米地区認知症の人と家族の会 NPO 法人「にこにこ会」(ガイドブック P.11 掲載)』をご存知ですか。

1. 紹介したことがある 2. 知っているが、紹介したことはない 3. 知らない

▼NPO 法人 にこにこ会

「認知症の人と介護家族を支える会」のこと。毎月第2水曜日 13:00～15:30(総合福祉会館)、認知症に関する不安や悩み、情報をざっくばらんに話し合う定例会を開催。

(9) 送付を希望するものがありましたら、下記に部数をご記入ください。

- ・ ガイドブック： _____ 部
- ・ カフェ等チラシ： _____ 部
- ・ 介護予防事業チラシ： _____ 部

(10) その他、何かご意見等ございましたら、下記にご記入ください。

以上になります。

今後とも、同封しております『認知症支援ガイドブック』や各種チラシ等の必要なサービスの情報を、患者様やご家族様に届けていただけますとありがたいです。ご多忙の中、アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

返送・お問い合わせ先

返送先 久留米市健康福祉部 長寿支援課 (担当：高林・松嶋)

FAX：0942-36-6845

締切り 令和5年6月30日(金曜日)

電話 電話：0942-30-9207



久留米市認知症支援ネットワーク会議（久留米市オレンジ会議）設置要綱**（趣旨及び設置）**

第1条 認知症の人やその家族が、できる限り住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、関係する団体から広く意見を聴くことを目的として「久留米市認知症支援ネットワーク会議（久留米市オレンジ会議）」（以下「会議」という。）を設置する。

（検討事項）

第2条 会議は、次の各号に掲げる事項について検討し、市に意見を述べる。

- （1）認知症の人やその家族を地域で支援していくための仕組みづくりに関する事項
- （2）「久留米市認知症支援ガイドブック」に記載する内容に関する事項
- （3）その他認知症施策に関する事項

（組織）

第3条 会議は、別表に掲げる団体（以下「構成団体」という。）をもって組織する。

（委員長及び副委員長）

第4条 会議に委員長及び副委員長1人を置き、委員の互選により選出する。

- 2 委員長は、会議を代表し、会務を総理する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議の開催）

第5条 会議は、必要に応じて委員長が招集する。

（認知症医療連携会議）

第6条 会議に、地域支援事業実施要綱に基づき設置された認知症初期集中支援チーム（以下「チーム」という。）の活動状況及びチームの活動における関係機関との具体的な連携方法に関すること並びに認知症の早期の発見及び治療につなげるシステムの構築等についての協議を行う「認知症医療連携会議（以下「連携会議」という。）」を置く。

- 2 連携会議の委員は、委員長が会議に諮って指名する。

（事務局）

第7条 会議の事務は、健康福祉部長寿支援課において処理する。

（委任）

第8条 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、市が別に定める。

附 則**（施行期日）**

- 1 この要綱は、平成30年5月11日から施行する。

別表

久留米市認知症支援ネットワーク会議（久留米市オレンジ会議） 構成団体

区分	団体
医療・保健・福祉関係	一般社団法人 久留米医師会
	一般社団法人 浮羽医師会
	一般社団法人 小郡三井医師会
	一般社団法人 大川三瀧医師会
	一般社団法人 久留米三井薬剤師会
	一般社団法人 久留米歯科医師会
	公益社団法人 福岡県栄養士会
	一般社団法人 福岡県歯科衛生士会
	福岡県認知症医療センター 久留米大学病院
	社会福祉法人 久留米市社会福祉協議会
	一般社団法人 くるめ地域支援センター
	福岡県若年性認知症サポートセンター（若年性認知症支援コーディネーター）
介護関係者	特定非営利活動法人 久留米市介護福祉サービス事業者協議会
認知症の人と 家族の会関係者	特定非営利活動法人 にこにこ会（久留米地区認知症の人と家族の会）
民生委員・児童委員	久留米市民生委員・児童委員協議会
校区まちづくり関係	久留米市校区まちづくり連絡協議会
商工関係	久留米商工会議所

久留米市認知症支援ネットワーク会議（久留米市オレンジ会議）委員名簿

区分	構成団体	委員氏名
医療・保健・福祉関係	一般社団法人 久留米医師会	山崎 剛
	一般社団法人 浮羽医師会	古賀 寛
	一般社団法人 小郡三井医師会	古川 哲也
	一般社団法人 大川三瀨医師会	北原 清恵
	一般社団法人 久留米三井薬剤師会	吉永 美恵
	一般社団法人 久留米歯科医師会	長澤 一利
	公益社団法人 福岡県栄養士会	関 美穂
	一般社団法人 福岡県歯科衛生士会	天本 和子
	福岡県認知症医療センター 久留米大学病院	小路 純央
	社会福祉法人 久留米市社会福祉協議会	大内田 千代
	一般社団法人 くるめ地域支援センター	稲田 臣治
福岡県若年性認知症サポートセンター	阿部 かおり	
介護関係者	特定非営利活動法人 久留米市介護福祉サービス事業者協議会	中村 祐子
	特定非営利活動法人 久留米市介護福祉サービス事業者協議会	堀江 桃子
認知症の人と家族の会関係者	特定非営利活動法人 にこにこ会（久留米地区認知症の人と家族の会）	藤井 哲郎
民生委員・児童委員	久留米市民生委員・児童委員協議会	綾部 章子
校区まちづくり関係	久留米市校区まちづくり連絡協議会	角 栄子
商工関係	久留米商工会議所	笠 智宣

18名